

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 京都精華大学

(2) 大学名
京都精華大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒606-8588
京都府京都市左京区岩倉木野町137

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イシダ リョウ) 石田 涼 (平成29年12月)		
学長	(ウスビ サコ) ウスビ・サコ (平成30年4月)	(サワダ マサト) 澤田 昌人 (令和4年4月)	任期満了による変更 令和4年4月1日(4)
学部長	(イナガ シゲミ) 稲賀 繁美 (令和3年4月)	(ヤマダ ソウヘイ) 山田 創平 (令和4年4月)	任期途中の担当辞退による変更 令和4年4月1日(4)
学科長等	(コレサワ ノリミツ) 是澤 範三 (令和3年4月)	(イワモト シンイチ) エサカ ユキコ 岩本 真一 恵阪 友紀子 (令和4年4月)	学部長交代による執行部変更 令和4年4月1日(4) 学科長および教務主任の役職者 交代による変更(6)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)

令和6年度に報告する内容 → (6)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学生定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
国際文化学部 人文学科 学士(文化)	社会学・社会 福祉学関係	4 年	160 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	640 人	-	基礎となる学部：人文学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の 学期区分につい て	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	-	-	-	-	160	-	160	-	160	-	160	-	-	0.59倍	一倍	学期に従い、他大学、短期大学、専修学校等から編入学を希望する者について若干名の受入を行っている。
志願者数	(-)	(-)	(-)	(-)	386	(-)	298	(-)	203	(-)	135	(-)				
受験者数	(-)	(-)	(-)	(-)	372	(-)	277	(-)	192	(-)	126	(-)				
合格者数	(-)	(-)	(-)	(-)	313	(-)	240	(-)	161	(-)	109	(-)				
B 入学者数	(-)	(-)	(-)	(-)	157	(-)	118	(-)	81	(-)	60	(-)				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	0.98	-	0.73	-	0.50	-	0.37	-				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
- ・ 「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次					149 [16] (5)	1 [1] (0)	114 [12] (5)	- [-] (-)	79 [4] (2)	- [-] (-)	61 [3] (-)	- [-] (-)	・令和3年10月1日：再入学1名（1年次） ・令和5年4月1日：再入学2名（1年次1名・2年次1名） ・令和5年4月1日：転入4名（2年次3名・3年次1名）
2年次							132 [15] (19)	1 [1] (0)	123 [14] (24)	- [-] (-)	99 [8] (-)	- [-] (-)	・令和5年10月1日：再入学1名（3年次1名） ・令和6年4月1日：編入学2名（2年次1名・3年次1名）
3年次									113 [12] (15)	2 [1] (1)	109 [12] (-)	1 [1] (0)	・令和6年4月1日：転入2名（3年次2名）
4年次											107 [11] (-)	1 [0] (0)	
計	[] ()	[] ()	[150] (5)	[17] (0)	[247] (24)	[317] (42)	[31] (-)	[35] (-)					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和3年度	150 人	9 人	令和3年度	9 人	4 人	精神面の不調(1人)、就学意欲の低下(2人)、就職・就職活動(1人)、除籍(1人)、[精神面の不調(1名)、就学意欲の低下(1人)、進路変更(転学など)(2人)]
令和4年度	247 人	20 人	令和3年度	14 人	人	就学意欲の低下(4人)、学力不足(3人)、進路変更(転学など)(2人)、精神面の不調(1人)、一身上の都合(1人)、除籍(3人)
			令和4年度	6 人	人	就学意欲の低下(1人)、進路変更(3人)、就職・就職活動(1人)、除籍(1人)
令和5年度	333 人	17 人	令和3年度	5 人	1 人	就学意欲の低下(1人)、就職・就職活動(1人)、精神面の不調(1人)、経済的困窮(1人)、[進路変更(転学など)(1人)]
			令和4年度	5 人	0 人	進路変更(転学など)(3人)、除籍(2名)
			令和5年度	7 人	0 人	進路変更(転学など)(1人)、就職・就職活動(1人)、精神面の不調(3人)、一身上の都合(1人)、除籍(1人)
令和6年度	378 人	0 人	令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
合計		46 人		46 人	5 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{9}{150} = \boxed{6} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{20}{247} = \boxed{8.09} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{17}{333} = \boxed{5.1} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{378} = \boxed{0} \%$$

- (注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

4 既設大学等の状況

大学の名称		京都精華大学					収容定員充足率0.7倍以下の学科数	2	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	1	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
国際文化学部	4	250	-	1000							
人文学科	4	160	-	640	学士(文化)	0.59	-		令和3	京都府京都市左京区岩倉木野町137	
グローバルスタディーズ学科	4	90	-	360	学士(文化)	0.30	-		令和3	同上	
メディア表現学部	4	168	-	672							
メディア表現学科	4	168	-	672	学士(メディア表現)	1.03	-		令和3	同上	
芸術学部	4	112	-	448							
造形学科	4	112	-	448	学士(芸術)	1.09	1.05		平成29	同上	
デザイン学部	4	256	-	1024							
イラスト学科	4	64	-	256	学士(芸術)	1.04	0.99		平成25	同上	
ビジュアルデザイン学科	4	64	-	256	学士(芸術)	1.18	1.12		平成18	同上	
プロダクトデザイン学科	4	72	-	288	学士(芸術)	0.99	-		平成18	同上	
建築学科	4	56	-	224	学士(芸術)	0.79	-		平成18	同上	
マンガ学部	4	312	-	1248							
マンガ学科	4	232	-	928	学士(芸術)	1.08	0.99		平成18	同上	
アニメーション学科	4	80	-	320	学士(芸術)	0.98	-		平成18	同上	
ポピュラーカルチャー学部	4	-	-	-							
ポピュラーカルチャー学科	4	-	-	-	学士(芸術)	-	-		平成25	同上	令和3年学生募集停止
人文学部	4	-	-	-							
総合人文学科	4	-	-	-	学士(人文)	-	-		平成21	同上	令和3年学生募集停止
大学全体	-	1098	-	4392	-				-	-	

(注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。

- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
- ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
- ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
- ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
- ・「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
- ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
- ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の実施計画
届 出 時 (令和元年)	<p>「アフリカ・アジア」と「京都」の関連性を新たな学部設置の動機として強調する理由について、その学術的根拠について学生が理解できるよう丁寧に説明することが望ましい。 (助言事項)</p>	<p>【届出】 助言事項</p> <p>アジア・アフリカの重要性や将来性、それらの国々からの出身者との交流が次世代の世界をつくるために大切なことが、カリキュラムをはじめ大学のさまざまな教育運営の現場において肌で感じられるものとなっている。 本学部の必修科目においては、問題意識を自覚めさせる総合的な講義と少人数の演習とを組み合わせている。その中で、多国籍の学生の交流を促進するとともに、京都の地の利をいかすことにより、日本理解を深化させていく。また、それを国外でも通用する知識や実践的能力に結びつける教育を進めることで、国内外での実地演習・フィールドワークに立脚した成果が、卒業要件となる設計となっている。 各科目における授業内での教授はもちろんのこと、カリキュラム全体の制度設計により、本学部の意図・目的について個々の学生に的確に説明されるとともに、確実に受肉されることが期待される。(4)(5)(6)</p>	<p>履行中</p> <p>前期・後期の開始前に実施する履修ガイダンスにおいては、その都度、学部のカリキュラムマップや科目構成の説明をし、その中で「アフリカ・アジア」と「京都」の関係性、学部内での位置付けを説明する。 また、第1・2クォーター開講の1年次必修科目「国際文化概論1」「国際文化概論2」では、リレー講義形式で、アジア・アフリカの専門家や日本の文学・歴史・社会・文化の専門家からの講義を行い、授業担当教員の専門分野の視点から「アフリカ・アジア」および「京都」の文化や歴史的背景等について解説し、知識を深める。 また、第3・4クォーター開講の1年次必修科目「国際文化史1」「国際文化史2」では、国際社会間の多様な文化交流史等についての学びを通して、「アジア」や「アフリカ」の文化と江戸時代まで日本における文化の中心地であった「京都」の関連性について理解を深めるとともに多角的な視点で分析を行う。 2年次では、「応用演習1～4」および各専攻の必修講義科目を通じて、授業担当教員の専門分野の視点から「アフリカ・アジア」および「京都」の文化や歴史的背景等についてさらに知識を深め、演習発表を通じて、各自の理解と興味を深める。(4)(5)(6)</p>
設置計画履行状況 調査結果 (令和3年)	<p>【AC】 指摘事項 (改善)</p> <p>教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。 (国際文化学部グローバルスタディーズ学科)</p>	<p>グローバルスタディーズ学科カリキュラムの柱となる1年次必修科目「海外短期フィールドワーク」および3年次必修科目「海外長期フィールドワーク」における各プログラムが学生にとって魅力あるものとなるよう、派遣先の選定およびプログラム開発に注力してきた。2023年度開講予定の3年次科目を含め、プログラムの詳細を記した冊子を作成し、授業内での指導に活用している。また、学部案内冊子の作成や高校の訪問、体験授業の開催等、広報活動を強化している。さらに、同年代の学生の目線で、学部・学科やカリキュラムの魅力発信すべく、学部公認学生団体による広報紙の作成やWeb上での学部・学科の学びについての紹介等も行っている。(4)(5) 必修科目における海外派遣プログラムの開発および教員による学生への細やかな指導により、各派遣地での学びが充実した。帰国した学生からは、プログラムに対する肯定的な感想が多く出ている。また、それぞれの研究や語学学習への意欲の高まりも感じている。このように、当初の計画通り、入学した学生への学びの提供は保証することができているが、入学者数の改善を行なうことはできなかった。(6)</p>	<p>履行中</p> <p>令和4年度については、1年次必修科目である「海外短期フィールドワーク」内での海外派遣を実施する予定である。事前学習や派遣先での調査・生活、実施後の成果報告等を発信し、広報活動へとつなげる予定である。また、毎月1回開催される学部運営会議および隔週で開催される学科会議等において、よりよいカリキュラムとなるよう各科目の授業内容について検討を進める。(4) 上記令和4年度の報告事項は、いずれも実施した。令和5年度は、3年次「海外長期フィールドワーク」が開講される。学生は、各派遣地での学びをまとめ、海外での生活や学びについて各自がまとめた記事をブログにして、学科オリジナルのホームページに公開している。あわせて、本年度中に「フィールドワーク報告展」を開催する予定である。グローバルスタディーズ学科における学びを学外者へ伝える場としたい。また、2025年度からのカリキュラム改革に向け、引き続き諸会議等での検討を重ねていきたい。(5) 入学者数の改善を図るため、2025年度にカリキュラム改革を行なう予定である。2024年度までに入学した本学科生が卒業するまで、その学びを保証するとともに、2025年度からは、専攻編成を見直し、新たなカリキュラムを導入することで、入学者の確保を図りたい。(6)</p>

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>設置計画履行状況調査結果 (令和4年)</p>	<p>教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。 (国際文化学部グローバルスタディーズ学科)</p>	<p>【A C】 指摘事項 (改善)</p> <p>昨年度に引き続き、グローバルスタディーズ学科の柱となる1年次必修科目「海外短期フィールドワーク」および3年次「海外長期フィールドワーク」を含むフィールドプログラムの運営に注力してきた。また、当該学科のWebサイトでは、学生によるフィールドワーク報告および所属教員による研究紹介など、学びの発信にも力を入れている。なお、学部案内冊子の作成や高校の訪問、体験授業の開催等についても、引き続き取り組んでいる。加えて、合格者向けの「ちょっと見学&相談デー」を設け、入学後の学生生活を円滑に送ることができるようサポート体制を強化している。同時に、より魅力的なカリキュラムとなるよう、2025年度より全学的なカリキュラム改革を行なうこととし、令和4年6月より検討を重ねている。(5)</p> <p>必修科目における海外派遣プログラムの開発および教員による学生への細やかな指導により、各派遣地での学びが充実した。帰国した学生からは、プログラムに対する肯定的な感想が多く出ている。また、それぞれの研究や語学学習への意欲の高まりも感じている。このように、当初の計画通り、入学した学生への学びの提供は保証することができているが、入学者数の改善を行なうことはできなかった。(6)</p>	<p>令和5年度は、3年次「海外長期フィールドワーク」が開講される。学生は、各派遣地での学びをまとめ、海外での生活や学びについて各自がまとめた記事をブログにして、学科オリジナルのホームページに公開している。あわせて、本年度中に「フィールドワーク報告展」を開催する予定である。グローバルスタディーズ学科における学びを学外者へ伝える場としたい。また、2025年度からのカリキュラム改革に向け、引き続き諸会議での検討を重ねていきたい。(5)</p> <p>入学者数の改善を図るため、2025年度にカリキュラム改革を行なう予定である。2024年度までに入学した本学科生が卒業するまで、その学びを保証するとともに、2025年度からは、専攻編成を見直し、新たなカリキュラムを導入することで、入学者の確保を図りたい。(6)</p>
<p>設置計画履行状況調査結果 (令和5年)</p>	<p>收容定員充足率が0.36倍と著しく低いことから、提示された学生確保に向けた取組等を確実に実施するとともに、学生確保の見通しを客観的根拠に基づき分析した上で、より効果的な改善策を新たに講じる等、收容定員の更なる充足に努めること。また、当該分析を踏まえ、必要に応じ、入学定員の見直しやカリキュラムの充実・改善等を含めた教学組織に係る将来構想を検討すること。(国際文化学部グローバルスタディーズ学科)</p>	<p>【A C】 指摘事項 (是正)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学試験制度について、国際文化学部の学生募集を強化するため、2024年度入試から総合型選抜の実施期を追加した。また、従来の試験科目に「小論文+面接型」を新設し、さらに従来の専願入試から他大学との併願を可とすることで受験機会の拡大を図った。 ・入学する上での学費等の経済的支援策については受験校決定に大きな要素であると考え、奨学金(英語資格取得特待生)制度を設立し志願動機を高め入学につながるようにした。(6) ・英語力が高いにも関わらず経済的理由により進学が困難な入学生を支援する目的で、奨学金制度(英語資格取得特待生)を実施した。また、入学後の2年次以降も指定する英語試験のスコアを取得した者に対し、さらなる奨学金制度(英語資格取得奨学金)を設立し、2024年度から在学生にも適用を始めた。入学後も修学に意欲的に取り組むことで経済的支援が継続的に受けられることを受験生に対して早期周知を図り、入学者の増加につなげることを目的とする。(6) ・学生募集に関して、様々なメディアを駆使して広報活動を重点的に実施してきたが、引き続き受験生の進路選択に影響がある進学メディアへ、追加で広告出稿を行い、さらに高校で実施される分野理解ガイダンス等へ積極的に参加した。(6) ・2022年6月から教育課程の見直しを進めてきた。広報活動のなかで専攻の名称「グローバル関係」「グローバル共生社会」「アフリカ・アジア文化」が高校生にとって教育内容や専攻内容の違いが伝わりにくいことから、これら3専攻を統合したうえで、「国際文化」専攻に名称や内容を変更する。さらに、教育内容の幅を広げるため、現在は国際文化学部人文学科にある日本文化専攻の領域をグローバルスタディーズ学科へ移動させ、「国際日本学」専攻と改称し、3専攻体制から2専攻体制へと再編することを目指し教学改革を進めた。(6) 	<p>・2025年度から国際文化学部グローバルスタディーズ学科の收容定員を、学生の志願状況に応じた定員に変更する予定である。</p> <p>・奨学金制度(英語資格取得特待生・英語資格取得奨学金)は継続して実施し、受験生に広く周知を行っていく。(6)</p> <p>・広報活動のなかで、専攻の名称「グローバル関係」「グローバル共生社会」「アフリカ・アジア文化」が高校生にとって教育内容や専攻内容の違いが伝わりにくいことから、これら3専攻は統合したうえで「国際文化」専攻に名称変更する。また、教育内容の幅を広げるため、現在は国際文化学部人文学科にある「日本文化」専攻の領域をグローバルスタディーズ学科へ移動させ、「国際日本学」専攻と改称し、2専攻体制とする。従来の3専攻を2専攻体制に変更し、世界と日本の関わりをグローバルとローカルの双方のアプローチにより文化や社会の視点から多角的に学修することができる学科へと2025年4月から教育課程を大幅に改定する。(6)</p> <p>・教職課程(英語中学一種、高校一種)を履修可能とすることで他大学の同系統の学部との競争力を高め、また、登録日本語教員が養成できる課程を設置し、卒業後は国内外で語学(英語・日本語)を活かした仕事に従事できることを可能とし、幅広い層の志願者の増加、獲得につなげていく。近隣の大学には見当たらない特徴的な制度の導入のため、さらに多くの受験生の獲得を目指していく。(6)</p> <p>・2022年8月からグローバルスタディーズ学科の特設サイトを開設し、教育課程で主要な授業科目であるフィールドワーク科目のプログラム概要や実際の学生体験談を紹介している。さらに、学内外から多くの来場者が見込まれる京都精華大学展(卒業・修了発表展)にも卒業論文の発表を行う予定で、当該学科での学びの魅力を発信し入学者の確保を図りたい。(6)</p>

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
設置計画履行状況調査結果 (令和5年)	教育内容の充実等を通じ、収容定員未充足の改善に努めること。 (国際文化学部人文学科)	【AC】指摘事項(改善) ・入学試験制度について、国際文化学部の学生募集を強化するために、2024年度入試から総合型選抜の実施期を追加した。また、従来の試験科目に「小論文+面接型」を新設し、さらに従来の専願入試から他大学との併願を可とすることで受験機会の拡大を図った。 (6) ・入学後の初年次教育から始まり、2年次から3年次における国内フィールドワーク・プログラム、4年次での卒業論文指導など、各年次において、教員からきめ細やかな指導を行なうとともに、学生の主体的な学び・研究を支援してきた。また、所属専攻の学びを柱としつつ、他専攻およびグローバルスタディーズ学科の科目も一定数履修させるカリキュラム構造のため、ローカルおよびグローバル双方の視点から学識を深化させることができている。 (6)	履行中 ・2025年度から国際文化学部人文学科の収容定員を、学生の志願状況に応じた定員に変更する予定である。(6) ・入学者数の改善を図るため、2025年度にカリキュラム改革を行なう予定である。2024年度までに入学した本学科生が卒業するまで、その学びを保障するとともに、2025年度からは、専攻編成を見直し、新たなカリキュラムを導入することで、入学者の確保を図りたい。(6)

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。
 - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5) (6)」と記載してください。
 - 【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。